

ガス事業の沿革

SINCE 1957～



市営ガスのはじまり

白鳥義三郎初代習志野市長が1953(昭和28)年6月にオーストリアのウィーンで開かれた国際自治会議に出席した際、同じ敗戦国のオーストリアで水道や宅造などの公益事業を営む状況を知りました。この公益事業の経営による都市基盤の整備に、自治振興の方向性を見出したことが市営ガス事業を始めるきっかけとなりました。

それまで天然ガスは、県内の茂原や大多喜地方にだけ産出されると考えられていましたが、1953(昭和28)年ごろ東京湾沿岸の江東地区、船橋市、千葉市、東金市などでも産出されることがわかりました。それに伴い、習志野市でも試験的に井戸を掘り天然ガスの自噴に成功し、1957(昭和32)年にガス事業を開始することになりました。

しかし、その後の環境基準の強化、施設の老朽化等により1997(平成9)年度末をもって自家井戸からのくみ上げを休止しました。現在では、液化天然ガス・県内産天然ガスを導管により購入し、習志野市全域と船橋市の一部にガスを供給しています。



ガス井戸採掘の様子

ガス事業の沿革

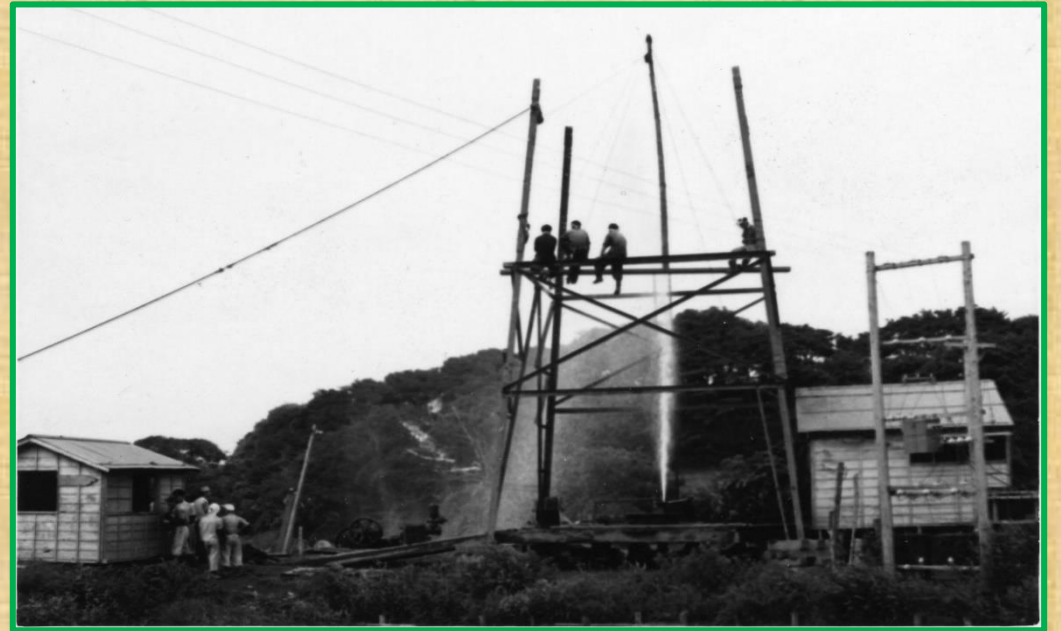
SINCE 1957～

1957～1974

事業認定～17年まで



- 1957年(昭和32年度)習志野市鷺沼で天然ガスの採取成功により事業認定(熱量 $38.4928\text{MJ}/\text{m}^3$)
- 1958年(昭和33年度)ガス事業開始(熱量 $18.828\text{MJ}/\text{m}^3$)
供給戸数1,000戸 年間ガス販売量15万 m^3
- 1962年(昭和37年度)藤崎供給所が完成
- 1964年(昭和39年度)千葉県内産天然ガスを原料とするガスの購入を開始
- 1966年(昭和41年度)熱量変更($18.828 \rightarrow 38.4928\text{MJ}/\text{m}^3$)
- 1973年(昭和48年度)外国産液化天然ガスを原料とするガスの購入を開始
- 1974年(昭和49年度)企業局を創設



ガス井戸採掘の様子



藤崎供給所ガスホルダー

ガス事業の沿革

SINCE 1957～

1975～1997

事業認定18年～40年まで



- ・ 1975年(昭和50年度)熱量変更(38.828→41.84MJ/m³)
- ・ 1977年(昭和52年度)東習志野供給所が完成。本市で初めて大型ガス冷暖房(JR津田沼北口ビル)が稼働開始
- ・ 1980年(昭和55年度)茜浜供給所が完成
- ・ 1985年(昭和60年度)袖ヶ浦受入所が完成
- ・ 1988年(昭和63年度)需要家数が50,000戸を超える
- ・ 1989年(平成元年度)東習志野製造所が完成。千葉県内産天然ガスの受入所を泉町から東習志野へ移設
- ・ 1997年(平成9年度)自家井戸からの天然ガスの採取を休止



自家井戸廃坑跡地



鷺沼供給所跡地

ガス事業の沿革

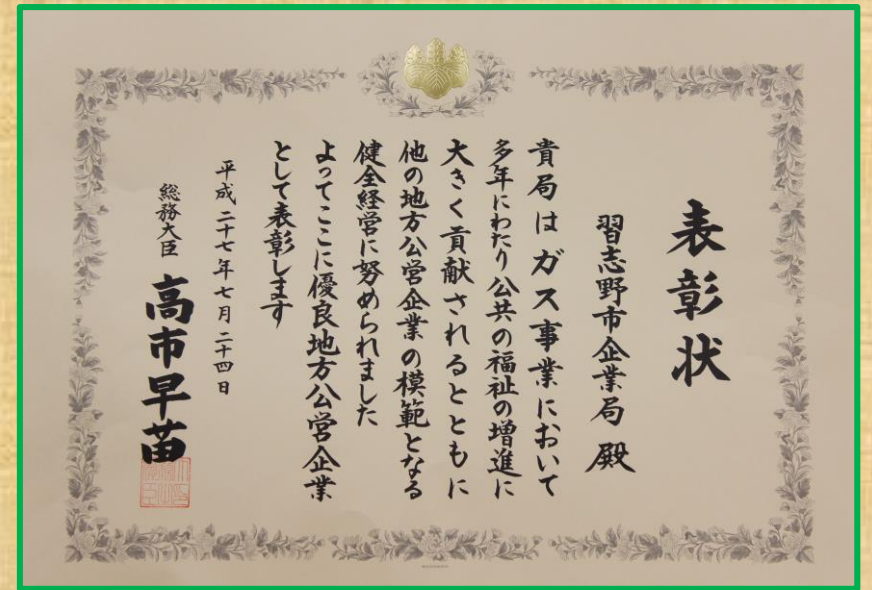
SINCE 1957～

1998～現在

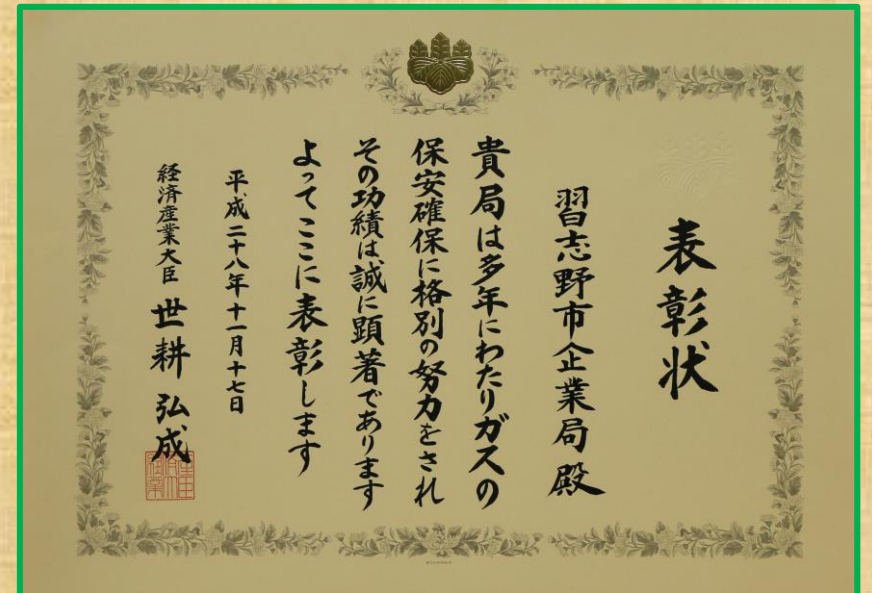
事業認定41年～現在まで



- 1998年(平成10年度)大口供給開始
- 2001年(平成13年度)東習志野エコ・ステーション完成
熱量変更着手($41.8605 \rightarrow 43.53492 \text{ MJ/m}^3$)
- 2004年(平成16年度)熱量変更($43.53492 \rightarrow 46.04655 \text{ MJ/m}^3$)
- 2006年(平成18年度)熱量変更($46.04655 \rightarrow 45 \text{ MJ/m}^3$)
- 2011年(平成23年度)東習志野エコ・ステーション廃止
- 2015年(平成27年度)優良地方公営企業総務大臣表彰受賞
- 2016年(平成28年度)ガス保安功労者経済産業大臣表彰受賞



【表彰状】優良地方公営企業総務大臣賞



【表彰状】ガス保安功労者経済産業大臣表彰